

平成 20 年 11 月 6 日

学 年 提 案

提案者：京都市立修学院第二小学校 間嶋 真利子

1. 育てたい子ども像

「話の中心点がわかり、手がかりになる言葉を見付けて、想像しながら読むことができる子」

2. 学年でつけたい力

- ア 相手や目的に応じ、筋道を立てて話す力
- イ 話の中心に気をつけて聞く力
- ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書く力
- エ 内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む力
- オ 漢字や語句などについて理解する力

3. 提案内容

- ア ・朝の会でスピーチを行い、人前で話すことに慣れることをまずは大切にしている。話すテーマを設定し、「～について話します。」や理由をつけて話すなど、授業で発表するときを意識しながらスピーチするようにしている。
 - ・朝の会で詩の朗読を行い、声の大きさや口型に気をつけながら読ませている。
 - ・「～さんと同じで」「～さんとちがって」など、話型を掲示し、話すときに場に応じて使えるよう心がけさせている。
- イ ・自分の意見と同じか、違うか、似ているかを考えながら聞くことができるようにさせている。
 - ・友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらにふくらますことを意識させている。
 - ・自分の意見と違ってそれを否定するのではなく、違う意見として認めることの大切さに気づかせるようにしている。
 - ・音読発表会や「おもしろいもの、見つけた」の発表会などで評価カードを使い、話すスピードや声の大きさなどを意識しながら聞かせるようにしている。
- ウ ・書いたものを隣同士やグループで交流し、互いの良さに気付けるようにしている。
 - ・「ありの行列」で初めて段落について学習したので、普段の日記や作文でも段落を意識して書かせている。
 - ・自分で書いた文章を読み返すくせをつけ、間違いを直したり足りないところを補ったりするなど、推敲させている。
 - ・文章を書くことが苦手な子には、これが書ければいいというキーワードを示したり、書き出しを示したりすることで、書くことへの抵抗を減らすようにしている。
 - ・字数制限を設けて、だらだらと長く書く癖を改善させたり、書く内容の構成を考させたりしてきた。
- エ ・宿題の音読では音読する視点を毎日決めさせ、めあてを持って音読できるようにしている。
 - ・音読をする時は、役割読みや動作をつけての読み、挿絵と比べながらの読みをしたりすることで、文章を読み取る手立てとなるようにしている。
 - ・読書ノートを活用したり、読書の時間に借りる本のジャンルをこちらから指定したりすることで、いろいろな分類の本に親しみ読書の楽しみを味わえるようにしている。
 - ・「本のさがし方」で図書室の分類について学習したことを生かし、分類を意識しながら本を選んで読むようにさせる。
 - ・「ありの行列」で「はじめ」「なか」「おわり」という文章の分け方を学習し、それを生かし、その他の教材文でも全体を意識しながら文章を読ませている。
 - ・教材に合わせて、場面読みと全体読みを使い分けて学習するようにしている。
 - ・教材文を表にまとめることで、内容の読み取りの助けになるようにしている。

- ・接続語という考え方に結び付けていけるよう、段落のはじめの言葉に注目させながら読ませている。
- オ ・漢字のミニテストを定期的にするこゝで、定着を図るようになっている。
- ・書き順や「とめ」「はらい」などを特に意識し、ていねいに書く習慣をつけさせるようになっている。
- ・新しく出てくる漢字は一字一字丁寧に学習し、その漢字を使った言葉や関連する言葉とともに学習することで、日頃から進んで漢字を使おうとする意欲を育てるようにする。
- ・難しい言葉は辞書を使ってその意味を調べ、語彙を増やすことができるようになっている。

4. 現時点までの成果と課題

【話す】

朝の会にスピーチをしたり授業中に発表する場を積極的にもうけたりして、話すことが苦手だという思いを取り除くことから始めた。最初は声も小さくうつむいたままで話す児童もいたが、何度も繰り返し返すことで、自信を持って自分の考えを発表することができるようになってきた。普段の話し方で話したり、だらだらととりとめなく話したりする児童もいたが、掲示してある話型を用いながら話せるようにもなってきた。

しかし、話の結びは「～です。」と言い切れていても、「～ですが」「～なので」などといった言葉を用いることができる児童は少なく、普段の会話と発表する時の言葉遣いを意識して話せていない。

【聞く】

先生の話をしっかり聞こうとする姿勢は身についてきた。大事なことはメモを取りながら聞こうとする姿も見られ、大事なことは聞き落とさないようにする態度が見られるようになってきた。

しかし、友だちの話を書くときは、自分の意見と比べて聞くことがまだ十分にできていない。自分の考えと同じところ、違うところ、似ているところを考えながら聞くことができるよう、繰り返し指導していきたい。

【書く】

思いついたことをすぐにそのまま文章にしてしまう児童が多かったが、まずは自分の考えを簡単にまとめ、構成を考えてから書き始めることの大切さに気付けるようになってきた。しかしそれを実践できている児童は少なく、こちらが指示しなければ思いついたまま書き進めてしまっている。そのため授業の終わりに100字という制限をもうけて振り返りや学習のまとめを書かせる取り組みを始めたところ、大事な言葉や内容を選んで書かなければいけないという姿勢に変わってきた。

内容のまとめりと文章は段落に分かれているということは理解しているが、自ら進んで段落を意識して書くことは難しく、日頃の日記や作文指導を通じて慣れていけるようにしたい。

【読む】

毎日の宿題で音読しているため、みんなの前で音読することを楽しいと感じる児童が増えてきた。音読発表会などを通して、登場人物の気持ちや場面の様子が分かるように工夫して音読する方法を学習したので、はやく読んだり小さな声で読んだり、表現豊かに読めるようになってきた。

文章の読み方については、場面読みしたり全体読みしたりその場に応じて変えることで、色々な文章の味わい方を知ることができた。「三年とうげ」では全体読みをすることで物語のおもしろさを十分に感じ、「ちいちゃんのかげおくり」では当時の背景やちいちゃんたち家族の気持ちに寄り添いながら読み取ることができた。しかし、一つ一つの言葉を大切にしながら読み取ろうとすることがまだできておらず、自分の思い込みや最初の印象だけで読み進めてしまう児童が少なくない。段落を意識して読み取ることまだまだ難しいので、今後の学習を通して継続して指導していきたい。また、読む力の差が大きいので、個への支援を工夫していきたい。

【言語事項】

文字を正しく書く、ということをお大切にしており、漢字学習では少しずつきれいに書くことができるようになってきた。しかしまだそれが普段の書く活動の中に生きてきていない。

言葉の意味も、曖昧な理解のままで終わってしまっているため、一つ一つの言葉を大事にしようとする態度を今後も育てていきたい。